

里山自然観察隊の観察日誌（平成19年度）
「宇部市地球温暖化対策ネットワークの環境教育支援事業」
「環境省こどもエコクラブ登録事業」

里山ビオトープ二俣瀬をつくる会

1. 食べられる野草（4月21日、隊員25名、保護者20名、会員13名）

今年の最初の観察隊は恒例になっている「食べられる野草」で、子ども達が探した野草をその場で天ぷらにして食べるという趣向です。例年20種の野草を探してもらうのですが、毎年子ども達がいとも簡単に見つけてしまうので、今年はビオトープ内の野草だけではなく、道沿いの木の芽、若葉も問題に入れました。今年の20種とは、セイヨウタンポポ、ノアザミ、ハハコグサ、フキ、ヨメナ、ヨモギ、セイトカアワダチソウ、タネツケバナ、ウシハコベ、カラスノエンドウ、ノビル、ツクシ、ワラビ、セリ、アサザ、サルトリイバラ、アケビ、ヤマザクラ、カキノキ、ヤブツバキ（花）ですが、その中で、セイトカアワダチソウ、ウシハコベ、アサザ、サルトリイバラ、アケビ、ヤマザクラ、カキノキ、ヤブツバキが今回初めて問題に入れた種類です。

例年とは違い、今年は午前中にビオトープ内がきれいに草刈りされているというハンディキャップをものともせず、子ども達はあちこちを走り回って、開始後30分には早くも全問正解者が出ました。これには正直言って私も驚きました。よく植物がわかった大人でも、30分で20種全部を見つけきるのは難しいと思います。私自身、1週間前の下見と当日の昼休みの計1時間半で、やっと20種を見つけたくらいです。45分間に子ども達の探した数の加重平均をとると、13.5種でした。子ども達の能力の高さには目を見張る思いです。

今年初めて試食した中では、サルトリイバラとカキノキがくせもなく、良い感じでした。反面、セイトカアワダチソウとヤマザクラはそれぞれ独特のくせが強過ぎ、期待したほどではなかったので次回は外します。

タケノコやワラビ、タラノメなど事前に準備したり、天ぷらに揚げてくださったスタッフの皆さん、ご協力ありがとうございました。来年はさらに問題を難しくするために山の中まで範囲を広げて、タケノコやコシアブラ、タカノツメ、リョウブなど、二俣瀬では一番良い天ぷらの材料を子ども達自身に取ってもらおうと思っています。

（美濃和 信孝 記）

2. 虫こぶ探し（5月19日、隊員27名、保護者19名、会員14名）

今回、初めての企画として虫こぶ探しをしました。さすが子ども達、次々に見つけては質問攻めです。最初に写真と実物で説明しておいたので、分りやすかったかなと思いました。最初の時の樹木の名札も古くなり、読めないものもありましたので、今回樹木の名前を調べて書いて取り付けてもらいました。前班と後班に分けて昭和山に入ったのですが、主に前班は鉄塔からのビオトープの下り道に札を付けてもらいましたが、樹木に限られていた（案内者もよく分っていない）し、虫こぶに比べて興味も少ないのか、急ぎ足でビオトープへ、ビオトープでは魚や昆虫を追っかけていました。後班は全員名札を付けられたとの事、さすが美濃和さん、ご指導恐れ入ります。今日、見つけた虫こぶは

1. サクラハチヂミフシ
2. コナラメリンゴフシ

3. クロキハマキカイガラフシ
4. カキハベリマキフシ
5. ハギハフクレフシ? (葉の裏に袋)
6. クリメコブズイフシ
7. コナラハマキフシ?
8. コナラハウラタマフシ?
9. スルデミミフシ
10. エゴノキハヒラタマルフシ?
11. ツツジハフクレフシ?

(西原 一誠 記)

3. 昆虫観察 (6月16日、隊員20名、保護者11名、会員14名)

今回は、心配された雨も降らず、無事行うことができてほっとしています。また、曇りでのぎやすくもありました。しかし、虫探しには、今ひとつの天気というほかありません。特に、蝶はいくつかの種類をのぞき、ほとんど飛んでいる姿を見ることができませんでした。それなのに、子供たちはすごいとしかいいようがありません。

蝶15種類、トンボ17種類、バッタ他18種類の計50種類が観察されました。

天気がよければ、季節的にももっとたくさんの虫たちが見られたと思います。

蝶	トンボ	バッタ・甲虫
【シジミチョウ科】 ベニシジミ、ルリシジミ、ツバメシジミ、ムラサキシジミ、ウラギンシジミ、ヤマトシジミ、 【シロチョウ科】 モンシロチョウ、キチョウ、 【タテハチョウ科】 メスグロヒョウモン、ツマグロヒョウモン、ヒメアカタテハ、イシガケチョウ、ヒメウラナミジャノメ、 【セセリチョウ科】 チャバネセセリ、ダイミョウセセリ	【イトトンボ科】 ベニイトトンボ、キイトトンボ、アオモンイトトンボ、クロイトトンボ、オオイトトンボ、アジアイトトンボ、 【モノサシトンボ科】 モノサシトンボ、グンバイトンボ 【トンボ科】 ハラビロトンボ、ショウジョウトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ 【サナエトンボ科】 ヤマサナエ、コオニヤンマ 【ヤンマ科】 サラサヤンマ、ギンヤンマ 【エゾトンボ科】 コヤマトンボ	【バッタ】 キリギリス、カマキリ、ツチイナゴ、トノサマバッタ、ショウリョウバッタ、他2種 【甲虫】 マメコガネ、セマダラコガネ、コガネムシ、ドウガネブイブイ、ナナホシテントウ、ホシハラビロヘリカメムシ、他4種 【蛾】 ヒョウモンエダシャク
15 種類 (5 科 14 種)	17 種類 (6 科 13 種)	18 種類 (15 種類)

() 内は、平成 18 年度の結果

(藤井 義晴 記)

4. 田んぼの生き物（7月21日、隊員22名、保護者14名、会員12名）

午後の里山自然観察隊は田んぼの生き物調査で、山口県の両生類生息マップを作成された山岡郁雄先生を迎えて行いました。田んぼではアイガモたちとヤマカガシが迎えてくれて、子ども達は大興奮でした。まず、植物として雑草であるコナギとタカサブロウを採ってもらいました。

次に網を持って、田んぼ・止水池・ため池などで、いろいろな生き物を捕まえてもらいました。

淡水魚（5種）：メダカ、カワムツ、ギンブナ、ドンコ、ドジョウ

甲殻類（4種）：ヌマエビ、スジエビ、少し大きいエビ？、サワガニ

貝類（3種）：マルタニシ、ニナ、シジミ

水生昆虫（8種）：タイコウチ、ミズカマキリ、アメンボ、ゲンゴロウ、ミズスマシ、マツモムシ、オオヤマトンボのヤゴ、緑色のヤゴ（ギンヤンマ？）

両生類（6種）：ニホンアカガエル（7匹）、シュレーゲルアオガエル（2匹）、ヌマガエル（4匹、縦筋有15匹で34%）、ツチガエル（2匹）、ニホンアマガエル（1匹）、アカハライモリ、多数のオタマジャクシ

（西原 一誠 記）

5. 川の探検（8月18日、隊員18名、保護者14名、会員10名+学生5名）

川の探検は、須賀河内川の川登り班とビオトープそばの川での観察班の2グループにて行いました。川登り班は子ども7人に大人5人がつき、タモアミ、投網による魚採取や滝登りを楽しみました。下流部は昨年よりヨシが茂り、淵が深くなるなど、また違った雰囲気でした。今回は全員無事ゴールに到着し、帰り道には父滝の滝つぼで暫時水浴を楽しみました。観察班は主に須賀河内川の下流で、網や投網を使って水棲生物を捕まえました。捕れた生物は、カワムツ、オヤニラミ、メダカ、ギンブナ、カマツカ、ドンコ、スジエビ、ヌマエビ、サワガニ、シマドジョウ、モクズガニ、カワニナ、マルタニシ、タイコウチ、ミズカマキリ、アメンボ、ヤゴ（オニヤンマ、コオニヤンマ、ギンヤンマ、サナエの仲間）、オタマジャクシ（ウシガエル）でした。大物賞は13cmのカマツカ、多くの種類では8種類を捕った子どもがいました。

（関根 雅彦・西原 一誠 記）

6. カエル捕獲大作戦（9月15日、隊員15名、保護者9名、会員10名）

カエルの専門家である秋吉台エコ・ミュージアムの田原義寛さんをお迎えして、ビオトープ周辺にいるカエルの調査をしました。7種類で全部で123匹も捕まえることができました。さすが元気な子ども達で、一番多く捕まえた子どもは、兄弟で58匹でした。

ヌマガエル：101匹（筋有は54匹で53%、7月の田んぼの生き物の時は34%）、

ツチガエル：8匹、ニホンアカガエル：3匹、ニホンアマガエル：2匹、

トノサマガエル：3匹、シュレーゲルアオガエル：2匹、

ウシガエル：4匹（3匹はオタマジャクシの尻尾が少し残っているもの）

ウシガエルはルアーなどを用意して釣りに挑戦しましたが、一匹も掛からずに、子ども達が川にいる大きなウシガエルを発見して、網で捕まえました。

（西原 一誠 記）

7. 森の探検（木の実、キノコ）

（10月20日、隊員7名、保護者6名、会員6名）

遊ロード昭和山から一里塚まで行って、ビオトープへ戻りました。見つけた木の実は32種類、キノコは6種類でした。クリ・スダジイ・アケビは沢山採れました。

食べた木の実：スダジイ、クリ、アケビ、エビヅル、フユイチゴ、ガマズミ、アキグミ

その他の木の実

赤い実：ソヨゴ、ウメモドキ

黄色～茶色の実：ピラカンサス、キヅタ、カキノキ、サルトリイバラ、ノイバラ

黒い実：ヒサカキ、アオツヅラフジ、クロキ、ネズミモチ、イヌザンショウ、ゴンズイ、
ナツハゼ、カクレミノ

紫色の実：ムラサキシキブ

堅果：コナラ、アラカシ、チャノキ

球果：アカマツ、ネズ（ヒムロ）、ヒノキ、スギ、オオバヤシャブシ、ヒメヤシャブシ

キノコ：シメジのなかま、カワラタケ、サルノコシカケのなかま、ドクベニタケ、ホコリタケ（オニフスベ）、ヒイロタケ

（美濃和 信孝・西原 一誠 記）